

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 13 日現在

機関番号：36101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20791809

研究課題名（和文） 職場における心的外傷を経験した看護師に対する介入法の確立に関する研究

研究課題名（英文） Study on establishment of the intervention method for the nurse who experienced the trauma in the workplace

研究代表者

新山 悦子 (NIIYAMA ETSUKO)

四国大学・看護学部・准教授

研究者番号：80389030

研究分野：看護学

科研費の分科・細目：7504

キーワード：心的外傷

1. 研究計画の概要

職場において暴言・暴力を経験した女性新人看護職に対するストレス反応を低減させることを目的に、グループアプローチを用いた有効な介入法の確立を図る。

2. 研究の進捗状況

著者らの先行研究の結果をもとに、病院の病棟に勤務する 30 歳以下の女性新人看護職（1～2年目）のうち、暴言・暴力の体験がある者を対象にグループアプローチを行い、無作為化比較試験によりその有効性の検討を試みた。対象者を病院ごとに介入群と対象群に無作為に割り付けし、暴言・暴力体験の有無と外傷反応について Impact of Event Scale-Revised (IES-R)、DSM-IVの心的外傷後ストレス障害に関する4つの質問項目にて職場における暴言・暴力体験者を調査用紙にて抽出し、その後、無作為に介入群と対照群に分け、介入群に対して職場における暴言・暴力体験によるストレスコーピングに焦点化した教育的介入、討論、行動療法（腹式呼吸、漸進性筋弛緩法、イメージ療法）を組み合わせ、安心感の共有、カタルシス、社会的適応技術、対人学習等を目的としたグループアプローチを週1回、90分/回、計3回（3週間）実施した。評価は、介入群、対照群ともに介入開始前、介入終了後、介入終了3ヶ月後の3時点で実施した。調査内容は、基本的属性、著者らが作成し、十分な内的整合性が認められたコーピング尺度、IES-Rであった。介入群と対照群に無作為に割り付け、介入群にのみ上述したグループアプローチを実施し、比較検討した。現在、コーピングについてはパイロットスタディを含め、何度か介入を行ったが、「気分転換」のみ、あるい

は「トーキング」と「気分転換」のみに有効な結果がみられた。今後、他の緩衝要因である認知等についても調査、グループアプローチを行い、より有効な介入法の確立を行うことが必要であると考えられる。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

先行研究を参考にコーピングに焦点化したグループアプローチについては有効なグループアプローチの内容が明らかになった。しかし更に有効な介入法を確立するために認知等、他の要因も加えてグループアプローチを実施することにより、より有効な介入法を確立する。

4. 今後の研究の推進方策

新人看護職を対象としているため、精神科看護師を対象としたグループのように、暴言・暴力を経験し、乗り越えた体験者を含めた対人学習の成果が出にくい。そのため、新人看護職の幅を広げて他の緩衝要因も組み合わせた介入法を研究していく必要がある。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

1. Etsuko Niiyama, Hitoshi Okamura, et al. : A survey of nurses who experienced trauma in the workplace: influence of coping strategies on traumatic stress, Stress and Health, 査読あり, Vol.25, 2009, p.3-9.

2. 新山悦子 : 女性新人看護職の暴言・暴力体

験による外傷反応の低減に認知が及ぼす影響，看護・保健科学研究誌，査読あり，14号，2010，p.49-58.

3.新山悦子，岡村仁：職場における心的外傷の想起が看護師の精神的健康に及ぼす影響，看護・保健科学研究誌，査読あり，15号，2011，印刷中.

4.岡村仁，新山悦子：看護師の職場における心的外傷の収集と分類，看護・保健科学研究誌，査読あり，15号，2011，印刷中.

5.新山悦子，岡村仁：看護師の職場における心的外傷の実態および外傷反応と共感性との関連，看護・保健科学研究誌，査読あり，15号，2011，印刷中.

〔学会発表〕（計1件）

1. 新山悦子，岡村仁：職場において暴言・暴力を体験した女性新人看護職に対するグループアプローチの有効性に関する研究，第29回日本看護科学学会学術集会，2009年11月28日，幕張メッセ国際会議場.